MachineryAGE#06
The Bridge of Life to Machine.

MACOP

病院からの帰り道
マズイのと目が合った。
そのエルフの少年は、
いかにもめぼしいカモがいないか
という風な目をしていて…

興味のなさそうな瞳が、
僕と合った瞬間嫌に
光ったような気がした。

MachineryAGE

#06 The bridge of Life to Machine.

「そこのお前、そうお前。
オレが飼われてやる。」

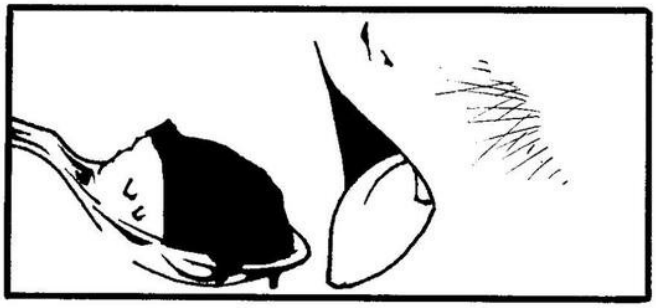
「ムリだよ。
こないだから記憶が無くなっちゃってて
自分一人でも持てあましてるのに。」

「記憶がないなら丁度良いじゃないか。
過去にオレがお前に飼われてたのかも
しれないんだし。」

「……」

「ま、いいや。オマエんチ行くぞ。ほら。」

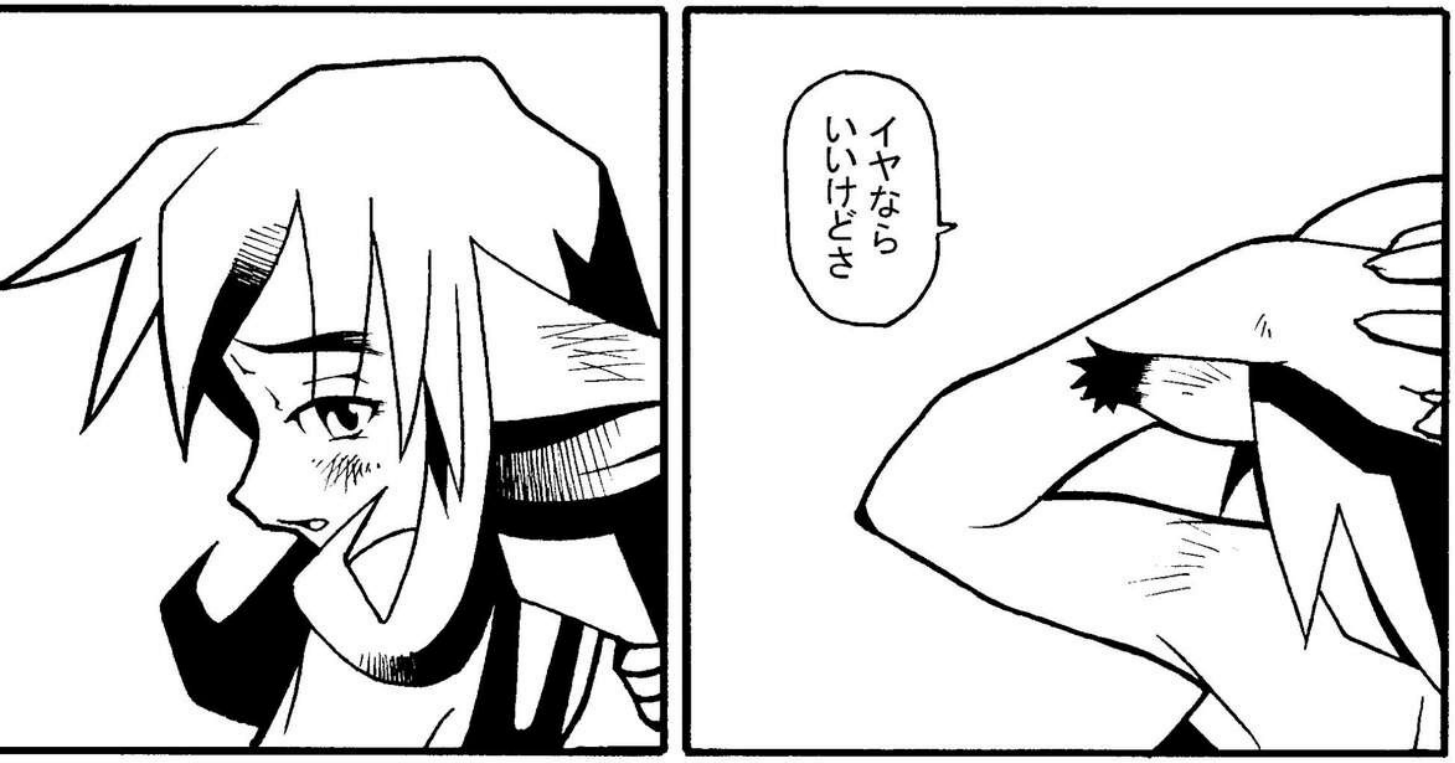
エルフは力が強い。
抵抗することもできず、
仕方なく自分の家に
連れて行くことにした。



よっぽどお腹を空かせて
いたのだろう。
エルフの少年はよく食べた。

おかげで今夜は僕の食事は
無くなったようだ。

んー
食ったくった
ペッ
よかったね
僕はペコペコだよ
ジャー
ご飯のお礼にちんちんしゃぶってやろうか？
シー
僕はエルフのこういうデリカシーの無さが嫌いだ。
ガッ
シャ



エルフが自分の意見を
引っ込めるなんてこと
あったかな？

ヘンなエルフ。

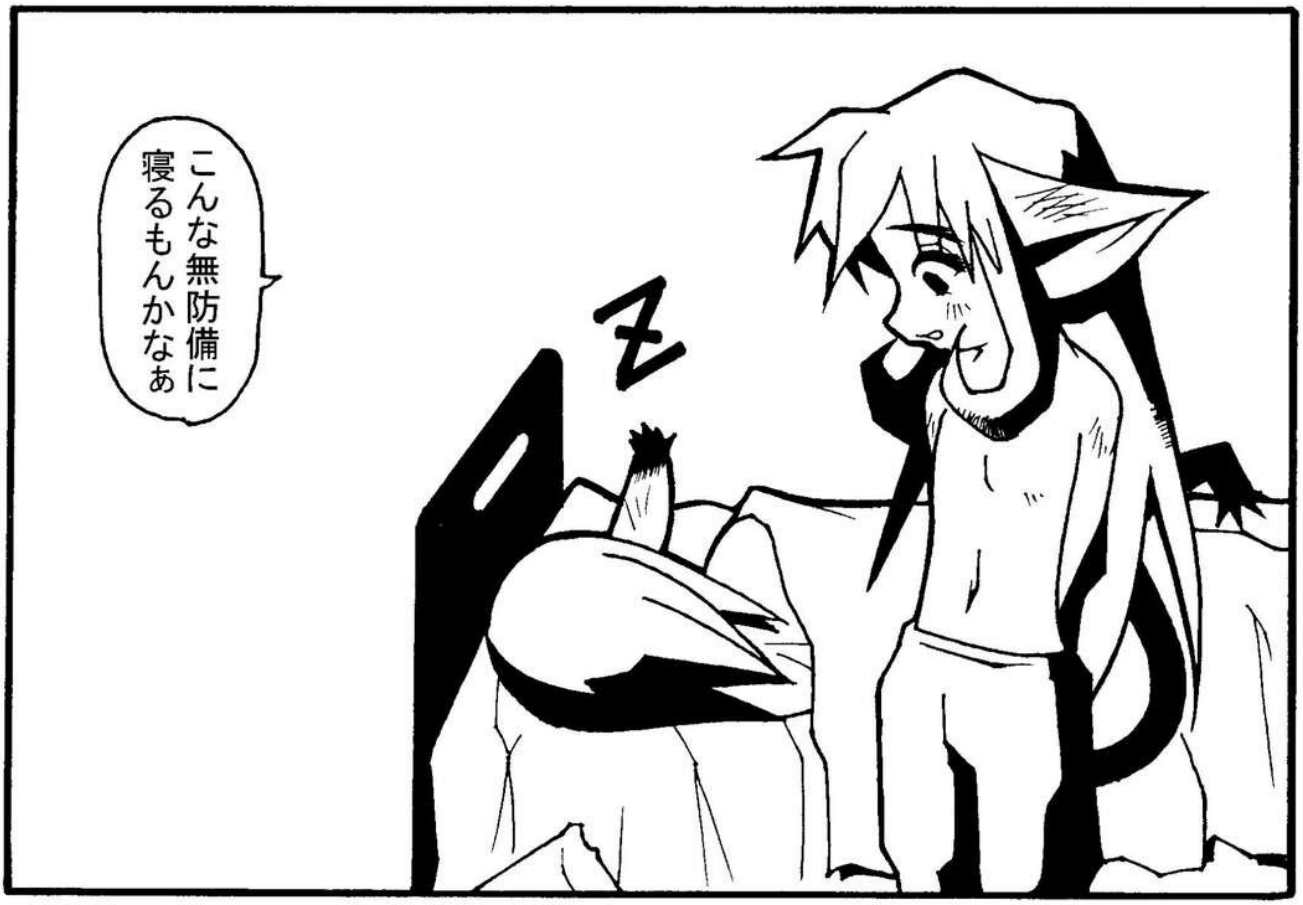
E-L-F 【エルフ】Ear Long Fabled

創世時代に栄華を誇った古代種。
世界は彼らから始まったとも言われる。
以前は高度な文明を持っていたが、
今では文明も衰退し他の種族に混じって半ば野良のように暮らしているか、
森林地帯で野生のように暮らしている。

好戦的で自分の意見を曲げず、
意見が通らない時は全て
暴力で解決しようとする傾向が強い。
同族同士でもしばしばこの争いは見られ
それによって命を落とすものも多く、
彼らが衰退したのはこれが原因ではないかと
言われているが、詳細は不明。

主神を太陽神 0-10-10SOULとする
太陽信仰を持つ。

右図は主神 0-10-10SOULに
祈りを捧げる遮光板を付けたエルフ。



一週間たち、
二週間たち。

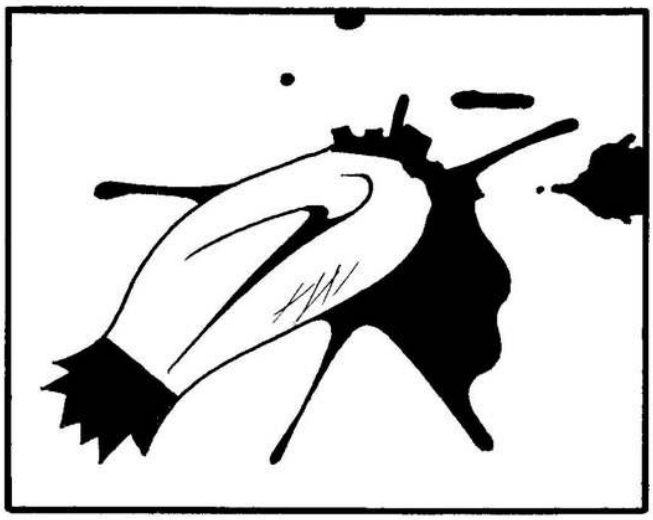
結局このエルフの
少年は僕の家に
居着いてしまった。

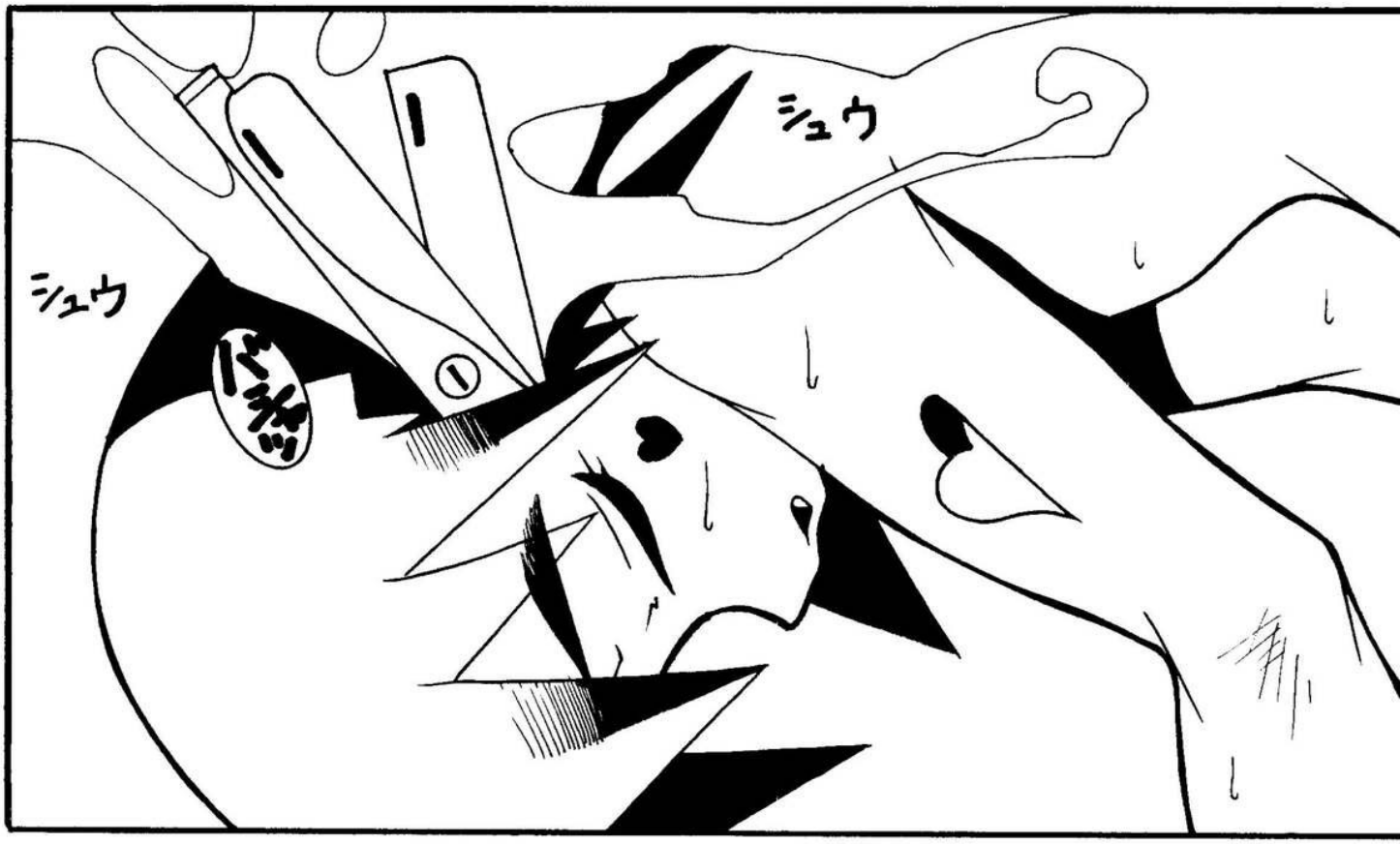
食欲は旺盛で、
僕の食費を削り続けるのだが、
なぜかだんだん
弱っていくように見えた。

毎日何をするでもなく
窓辺でけだるそうに
タバコをふかしていることが多い。

なぁ。
エッチしようぜ
にも関わらず
性欲は旺盛
どうして
そう…
ドサ
どうしたの！
しっかりして！
バーン

その耳は





既視感

ん…

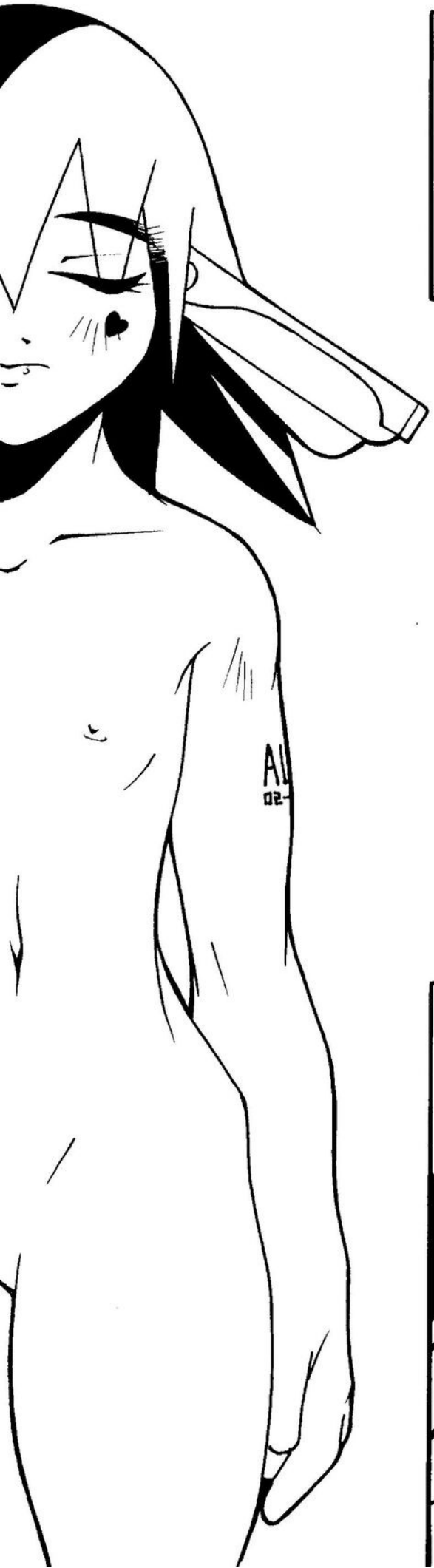
起きた？
大丈夫、動ける？
…うん
放熱機をあんなもの
で覆ってたから
熱暴走したんだよ

次はこっち

君は生体機械
スクブス・レプリカ

おいで、
動旋律結晶のタバコじゃ
非常食にもならないよ

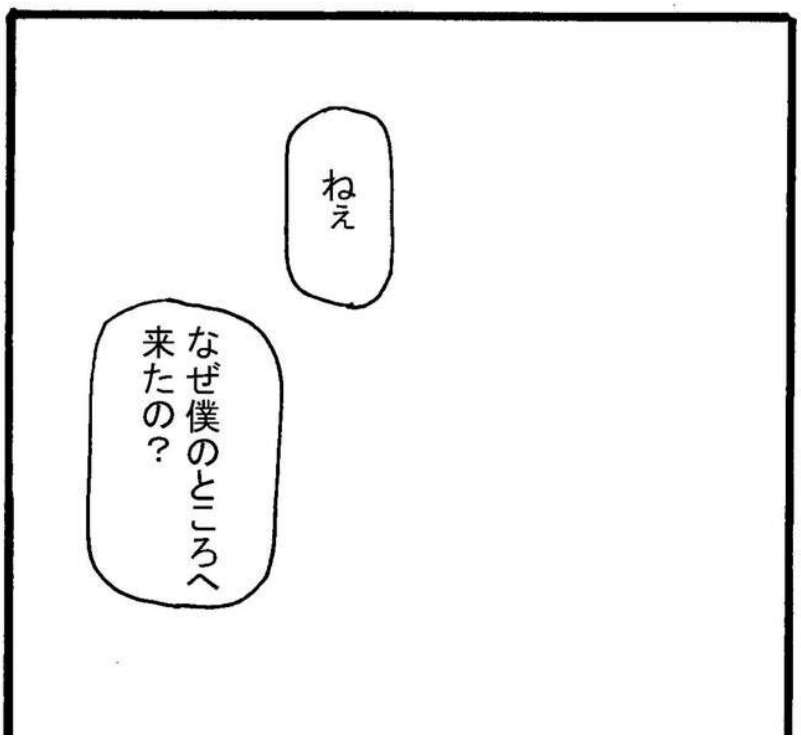
処理場から逃げてきたんだね



【生体機械スクブス・レプリカ】
機械幻想時代の生体機械を参考に創られた
愛玩用ヒューマノイド。
小型軽量化されたボディは内部密度が高く、
そのため頭部に放熱用の機器を露出させている。
彼らは低レベルの生命吸収器官しか持たず
防御力の低い生命…精子を摂取しないと
その身体を維持できない
「前生命の相互リンクによる救済」
を目的とする現皇帝は
「情と欲の偏向を煽るモノ」として
彼らの製造、使用を禁止し
現行機の全てを処分しようとしている。

彼らは確かに「モノ」だ。
生体部品は表面にしか使用されず、
主要臓器、思考器官のほとんど全てが
機械部品で構成される。
でも僕は、同情でもなく、
彼らに生命があるとかないとかいう
理屈でもなく

ただ、
関わってしまったから…


ねぇ
なぜ僕のところへ来たの？

モノと生命を繋ぐリング

おぼろげに理解する。

僕の無くした
記憶を取り戻す鍵。

END